

事業計画に対して、実際に取り組んだ内容

図書館計画に基づく、令和4年度の「事業計画」の各項目を目標として取り組んだ内容

総合自己評価・今後の課題改善点

令和4年度の「事業計画」の取り組み内容を、今後の課題改善点を踏まえて、1から6までの基本方針ごとに総合して行った評価

評価指標

- A: 事業計画の目標に対し概ね達成している
- B: 事業計画の目標に対し一部達成している
- C: 事業計画の目標に対し課題がある

基本方針1 資料の収集と保存の充実

令和4年度事業計画	
①	利用の多い児童書について複本購入や資料の入替えを継続して進めます。
②	入替え計画に基づき、大活字本の入替作業を行います。
③	保存館の調整を継続して行い、資料の移動を進めます。
④	音訳資料等の保存資料の整理を行います。
⑤	マルチメディアデジターの普及に努めます。

事業計画に対して、実際に取り組んだ内容	
①	●小学生のおすすめ図書リスト「で・あ・い2」、中学生のおすすめ図書リスト「道しるべ2」の発行に合わせ、掲載資料の買い替えと複本の購入を行い、資料の活用に対応できるようした。 ●耐震工事休館を終えて再開した中央図書館では、買い替えと合わせて積極的に児童書を購入した。
②	●芝久保図書館と柳沢図書館の大活字本資料を入れ替えた。芝久保から柳沢へ323冊、柳沢から芝久保へ340冊の蔵書を入れ替えることにより、書架の鮮度を保ち、その場で利用できる環境を整備した。令和2～4年度の3年間かけて、6館の大活字本の入替作業は計画通り終了した。 ●耐震工事休館を終えて再開した中央図書館では、書架のレイアウト変更により、大活字本コーナーを拡大することができた。
③	●柳沢図書館の集密書架にあった全集の一部について、利用状況を精査し、芝久保図書館の閉架書庫に移設した。 ●芝久保図書館の閉架書庫で保存している蔵書のうち、出版年が経過しても要求が多い「講談社学術文庫」、「講談社現代新書」、「ブルーバックス」を、柳沢図書館の開架(集密書架)に移設することで、利用者が直接手に取り、閲覧できるようした。
④	●カセットテープ版資料の一部を廃棄処分し、利用者の実情に合ったデジター版資料への移行を進めた。
⑤	●マルチメディアデジターがどんなもので、どう使えるかをまちなか先生(芝久保小・住吉小・保谷小)の授業で、小学生に紹介し、体験してもらうことで、普及の第一歩とすることができた。

基本方針1の総合自己評価・今後の課題改善点	
自己評価	評価・今後の課題改善点
A	●一般書、児童書、大活字本、ハンデキャップ資料と共に、地域・行政資料や視聴覚資料等についても、限られた予算の中で市民の要求に応じられるように、体系的な収集に取り組んだ。 ●新旧問わず配架に工夫を加えることで、利用者と資料の出会いの機会を増やすことと、後世に残す役割を果たすため保存にも心掛けた。 ●今後も魅力ある開架書架であり続けるため、幅広い分野の資料収集と、将来の図書館利用を見据えた保存を継続するための書架整備に取り組まなければならない。

図書館協議会委員による二次評価	
二次評価	評価内容

基本方針2 すべての市民に活用されるために

令和4年度事業計画	
①	宅配サービスの体制等について見直し、サービスの充実に努めます。
②	デージー図書の利用拡大に努めます。
③	市内高齢者施設、施設入所者への読書支援に取り組みます。
④	多文化理解のためのサービスは、関係部署や地域で活動する団体等と連携しながら、利用の促進を図ります。
⑤	日本語を母語としない人が利用しやすい環境について検討を継続します。
⑥	資料等を活用した講演会・講座を実施します。
⑦	オンラインデータベース利用環境の充実およびその広報に取り組みます。

事業計画に対して、実際に取り組んだ内容	
①	●宅配サービスの広告を市内循環の「はなバス」に3ヶ月間掲載し、バス利用者に広くPRした。 ●増加傾向にあるサービス利用者に対応するため、担当職員が配置されていない館でも宅配協力員と協力し、サービス提供を滞りなく行えるよう務めた。
②	●庁舎内の他部署に「デージー図書」を含めたハンディキャップサービスの案内に置くことにより、図書館利用者以外の市民にも資料・サービスのPRをおこなった。
③	●市内高齢者施設からのリクエストに応じた団体配送での貸出や、施設入居中の個人の方へ宅配サービスなどにより、読書支援を引き継ぎ行い、利用団体・利用者は増加した。
④	●多言語おはなし会「いろいろなことばでたのしみおはなし会」では、多言語による読み聞かせで6言語のおはなし会を提案し、18回実施し、親子64組、182人の参加があり、多くの利用があった。 ●多文化講座「にほんご多読ワークショップ」を実施し、11人の参加があり、にほんご多読に繋がる取組として、感触を得た。 ●多文化理解のための企画展示を3回実施し、利用者の多文化への関心を得た。 (1)世界の年末年始(12月中央) (2)絵本で世界を旅しよう(3月ひばり) (3)おなじ絵本deよみくらべ(3月中央)
⑤	●日本語多読資料コーナーを中央図書館に開設した。日本語学習者が利用しやすいように、日本語のレベルに対応した請求記号を設定し、図書を配置することを心がけた。 ●日本語を母語としない利用者を対象として、図書館の利用方法に関する動画作成について検討し、R5年度の公開に向けた課題の整理を行った。
⑥	●令和3年度の講演会での参加者からのアンケートをもとに、現役の新聞記者を講師に迎え、オンライン講演会「どう読む？新聞 読み方のスズメ ～SNS時代にあえて読む3つの理由～」を実施し、42名が参加した。紙の新聞に加え、新聞データベースの紹介も行い、両方の利用促進を図った。 ●中央図書館のデータベース専用席の新設に伴い、対象別に講座や講習会を実施し、データベースの活用促進を図るよう努めた。 1.「自由研究応援企画『自分だけの誕生日新聞をつくろう』」 対象:小中学生 2.まちなか先生「新聞をつかって調べてみよう」 実施校:小学校2校(通常学級3クラス、適応学級1クラス) 3.講習会「経済情報を見る・調べる～経済情報データベース日経テレコンの使い方～」 対象:一般 4.「新聞データベース活用企画『あなたの思い出新聞』」 対象:一般 5.講演会「ネット情報の海に溺れない学び方・学ばせ方」 対象:一般
⑦	●提供するデータベースの見直しを行い、法律総合データベース「D1-Law」を導入したことにより、現行法令だけでなく過去の法令や判例の検索、横断的な検索が可能になった。 ●中央図書館に新設したデータベース専用席ではプリントアウトを可能にし、より利用者の調査・研究の活用につながる環境を整備した。

基本方針2の総合自己評価・今後の課題改善点	
自己評価	評価・今後の課題改善点
A	●来館困難な方への宅配サービスやデイジー図書の提供、多文化理解のためのイベント等を通じて、誰もが図書館を利用するための幅広い読書の支援につなげた。 ●オンライン講習会やまちなか先生での講座など、従来のような図書館での参集型の講座に限らず、さまざまな方法で子どもから大人までに向けて資料の活用に関する講座を実施できた。 ●中央図書館にデータベース専用席を設置し、利用者個人がより調査・研究活動に有効活用できるレファレンス環境が整備できた。 ●図書館で利用できる資料や、サービスの情報を潜在的な利用者へ届けるために、広く周知する方法が課題である。●個人で簡単に情報が手に入る今こそ、利用者に活用され続ける図書館として、資料構成やイベント、その提案方法等は、常に検討すべき課題といえる。

図書館協議会委員による二次評価	
二次評価	評価内容

基本方針 3 西東京市の文化・歴史を次世代に継承する

令和4年度事業計画	
①	地域・行政資料室において、地図資料を中心に書架構成を見直し、利用者が容易に情報を探索、閲覧できるように、常に状況を確認しながら改善に取り組みます。
②	ホームページで発信している西東京市に縁のある人物情報の充実を積極的に行います。

事業計画に対して、実際に取り組んだ内容	
①	●中央図書館の耐震改修工事に伴う地域・行政資料室の更新により、2階の書庫も併せて書架の刷新と閲覧席スペースを1.5倍に増やすことが実現した。 ●地域・行政資料室には、地図の専用書架を設置し、西東京市に関する主要な資料を壁面に分類順にまとめ、利用者にとってブラウジングしやすく手に取りやすい書架を構築した。
②	●図書館ホームページ「西東京市 縁(ゆかり)の方の紹介」コーナーで、新しく3名の西東京市縁の人物を追加し、既存の人物についても4名の情報を更新した。 ●縁のある人物を講師とした講演会では、イベント周知の段階からホームページを活用して、人物や著作等の紹介など、積極的に発信し、参加者の興味関心を広げるよう努めた。

基本方針3の総合自己評価・今後の課題改善点	
自己評価	評価・今後の課題改善点
A	●地域・行政資料室のリニューアルにより、利用者にも職員にも利用しやすい案内しやすい書架の再構成に取り組むことができた。 ●今後は、収集・保存している資料や情報の提供と共に、その活用事例等について積極的に案内することで、利用の促進につなげることが課題である。 ●西東京市に縁のある人物情報に関しては、西東京市の文化・歴史の継承としての情報の蓄積と同時に、その人物や周辺の方々との貴重なつながりを大切に良好な関係を育むことを続けていくことが大切である。

図書館協議会委員による二次評価	
二次評価	評価内容

基本方針 4 未来を担う子どもの読書活動の支援

令和4年度事業計画	
①	乳幼児とその保護者に向けて、絵本の紹介や読み聞かせ、わらべうたなどの講座を実施します。
②	新型コロナウイルス感染拡大防止策として、絵本と子育て事業(ブックスタート)を、図書館窓口や郵送での絵本プレゼントで対応し、子どもと保護者の読書活動を支援します。また、3歳児フォロー事業については、図書館を会場とした3歳児健康診査対象者限定のおはなし会を実施します。
③	図書館利用のきっかけづくりとなる、一日図書館員をはじめバックヤードを体験できるイベントを実施します。
④	読書活動振興を目的に、要望に応じた放課後子供教室への司書派遣について、検討をすすめます。
⑤	YA世代を対象とした読書会等、読書の楽しみを他者と共有できるイベントを開催します。
⑥	学校司書と連携し、調べ学習の協力・支援を継続します。
⑦	小学生向け冊子「で・あ・い」、中学生向け冊子「道しるべ」を新たな内容で発行します。
⑧	YA世代に向けて、調べ案内(パスファインダー)の作成を検討します。

事業計画に対して、実際に取り組んだ内容	
①	●「おひざのうでよみかかせ」～乳幼児保護者向け絵本講座～(全2回)を実施し、32名が参加した。参加者からのアンケートには、「とてもよかった」「よかった」が100%で満足度の高かった。 ●2回の連続講座の形式については、「連続講座は場への安心感が回を増すほど増えていくので、とてもいい。」「居場所づくりになる。」と好評だった。 ●コロナ禍以降、3～4か月健康診査会場での「絵本と子育て事業」が実施できない現状において、「乳幼児保護者向け絵本講座」で対面で読み聞かせ等の案内ができたことは、乳幼児やその保護者に向けて本に出会うきっかけづくりになった。
②	●絵本と子育て事業(ブックスタート)として、図書館窓口または郵送にて希望者1,143名に絵本を届けることができた。対象者に対する配布率は87%となった。 ●コロナ禍以降、3～4か月健康診査会場での「絵本と子育て事業」が実施できない現状において、図書館窓口または郵送により絵本の配布が継続できたことは、乳幼児やその保護者に向けて本に出会うきっかけづくりにつながった。 ●3歳時フォロー事業のおはなし会は、柳沢図書館とひばりが丘図書館で5回実施し、6名が参加した。
③	●コロナ禍で中止していた「一日図書館員」を3年ぶりに再開し、当初予定していた参加枠を拡大して受け入れ、小学生57名、中学生9名が参加した。 ●図書館の裏側が見学できる「図書館バックヤードツアー」は、親子での参加もあり、中央図書館で24名、ひばりが丘図書館8名が参加した。
④	●放課後子供教室への司書派遣について、来年度以降の実施に向けて社会教育課と協議した。 ●放課後子供教室実施している谷戸第二小学校と芝久保小学校を見学した。 ●令和5年1月18日に、谷戸第二小学校でおはなし会を試行し、児童22名が参加した。
⑤	●YA世代を対象として短歌作りワークショップ「詠んでみよう わたしの短歌」(全2回)を実施9名が参加した。参加者同士が言葉を共有し、短歌という新しい世界と触れ合う機会を設けることができた。 ●イベント終了後、図書館内で参加者自作の短歌や関連資料を展示し、図書館の利用の促進につなげた。
⑥	●学校への調べ学習の協力・支援として、学校司書からの要望に応じて、随時資料の探索や調査、団体貸出等に対応を継続した。 ●学校司書連絡会には、児童サービス担当司書職員が5回出席し、児童書の新刊紹介や情報交換を行った。 ●団体貸出用のセット本「いいね!! 西東京市図書館」おすすめセレクト」は学校司書への周知が定着し、継続的に活用された。
⑦	●10年ぶりに内容を刷新させて、「で・あ・い 2ー小学生の本のリストー」「道しるべ 2ー中学生の本のリストー」を発行。各小学校・児童館・学童クラブへ配布し、各館にて掲載本を展示して利用を促した。
⑧	●令和5年度に調べ案内(パスファインダー)を作成するため、他自治体公共図書館の先行事例を集めて検証した。 ●市内全中学校の学校司書を対象にアンケート調査を実施し中学生の日常生活や学習活動を取り巻く状況やニーズを聞き出した。 ●上の結果、魅力的なパスファインダーのイメージの構築と、中学校現場のニーズに即したテーマ選定を行うことができた。

基本方針4の総合自己評価・今後の課題改善点	
自己評価	評価・今後の課題改善点
A	●乳幼児やその保護者、小学生、YA世代に向けて、様々な行事や事業を行ったことで、図書館利用のきっかけや本に出会える場づくりに取り組むことができた。 ●3～4か月健康診査会場での「絵本と子育て事業」再開の見通しがつかないため、他会場での実施に向けて各所と調整し開催を実現することが今後の課題である。 ●3歳時フォロー事業は、参加者が伸びなかったことを踏まえ、来年度以降、会場や時間設定などをの見直しが必要である。 ●今年復活した一日図書館員は、夏の定例イベントとして定着しているので、期待に応えられるように継続していく。 ●2年目のバックヤードツアーは、子ども・保護者ともに興味を持ちやすく好評であるため、ブラッシュアップして来年度も継続する。 ●放課後子供教室への司書派遣は、今年度の試行をもとに本実施へつなげることが課題である。 ●YA世代のイベントについては、より多くの子どもたちが参加できるよう、内容や時期を検討する必要がある。 ●調べ方案内については、今年度の調査結果を基に、パスファインダーの内容を練り、令和5年度中に3つのテーマで作成し、図書館ホームページでの公開を予定している。 ●好調だった団体貸出用のセット本「いいね！！西東京市図書館」おすすめセレクト」は、来年度はセット内容の調整を行い、更にスムーズな利用促進を目指す。 ●いつでもどこでも子どもが本に出会える場をつくることや子どもの成長に沿ったイベントの開催は、ボランティアや学校や他課等との連携により、計画に沿って実施することができた。 ●今後も引き続き、行事・事業を展開するとともに、各所との連携を深め、子どもたちの読書活動の充実に向けて支援をすすめていくことが課題である。
図書館協議会委員による二次評価	
二次評価	評価内容

基本方針 5 地域、行政と連携した図書館サービスの向上

令和4年度事業計画	
①	武蔵野大学との協力事業を推進します。
②	「第4期西東京市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動の推進を図ります。
③	社会教育課、公民館及び図書館3課共同事業として、「まちなか先生」を実施します。
④	新たな音訳者の養成と音訳者の技術向上のため、初級養成講座・専門研修を実施します。

事業計画に対して、実際に取り組んだ内容	
①	●司書職員が出向き、武蔵野大学日本文学文化学科の授業にて講義を行った。 ・授業名称:「入門ゼミB」特別授業(図書館司書) ・実施日時:令和4年12月19日(月)午後1時10分から2時50分 ・講義内容:前半「図書館とは何か、および西東京市図書館における図書館サービスについて」 後半「図書館司書の役割や責務について」 ●授業後のアンケート結果を、中央図書館にある青年期コーナー資料の選書や蔵書構成に反映している。 ●授業後に、学科の先生方に向けて、学生との共同企画について説明を行い、令和5年度に向けて連携を取っていくことを確認した。
②	●「おはなし会ボランティア中級講座」を実施し、おはなし会ボランティアの読み聞かせの資質、技術の向上を図った。 ●「おはなし会ボランティア入門講座」をもぐらの会との共催で実施し、おはなし会を充実させるための人材の育成に努めた。
③	●学校の要望に応じて「まちなか先生」として司書職員が出向き、授業を行い、図書館サービスや資料について理解を深め、図書館や地域に興味関心を持ってもらえるように取り組むことができた。 ・実施回数:5講座 8校 17回 ・講座名 1.「ハンディキャップサービスってなあに？」:3校 2.「図書館にいてみよう」:1校 3.「『職業』・『仕事』の本の紹介」:1校 4.「図書館にある郷土の紙芝居を「西東京市図書館/西東京デジタルアーカイブ」で見よう」:1校 5.「新聞をつかってしらべてみよう」:2校
④	●新規に15名の音訳者を選考し、全10回の「音訳者養成講座(初級)」を実施したことで、音訳活動を維持する人材の増員・確保につなげた。 ●継続して活動している音訳者向けに5種類の「専門研修」を企画し、各人に必要とする研修を選択して受講してもらい、音訳技術の向上に役立てた。 ●デジ編集初心者向けの講習会を実施し、音訳と共に録音・編集機器の操作技術を習得につなげた。

基本方針5の総合自己評価・今後の課題改善点	
自己評価	評価・今後の課題改善点
A	●地域に根差した公共図書館としてサービスを発展させるために、市内の大学や小中学校、市民や団体と連携し、ネットワークづくりを進めることができた。 ●おはなし会や音訳活動において、新たなボランティアの育成や、すでに活動しているボランティアの技術の向上にも取り組み、サービスの充実が図れた。 ●今年度の取り組みを活かし、今後も引き続き地域や行政と連携した図書館サービスの向上に努めることが重要である。

図書館協議会委員による二次評価	
二次評価	評価内容

基本方針 6 効率的・効果的な運営体制の構築

令和4年度事業計画	
①	行政職員として必要な知識を習得するための研修に積極的に参加します。
②	資質向上のため関係機関が開催する専門的な研修へ参加し、習得した知識や情報を共有することで組織力の強化を図ります。
③	次期図書館計画策定に向けて、利用者アンケートを実施します。
④	図書館システムとネットワークの安全な運用に努めます。
⑤	図書館計画に基づく実施事業の自己評価を行い、図書館協議会による二次評価を実施します。

事業計画に対して、実際に取り組んだ内容	
①	●各職場(館)で調整し、勤続年数、職層に応じた行政職員のための研修は率先して参加した。
②	●都立図書館主催研修、東京都市町村図書館長協議会各部会の研修会、東京都多摩地域公立図書館大会等の企画へは、内容に合わせて担当業務で関連の深い職員が参加した。
③	●次期図書館計画策定に向けた利用者アンケートを、15歳以上を対象に令和5年3月19日から4月16日まで実施。小中学生には、翌年度(令和5年4月10日から4月24日まで)に市立小・中学校の各校各学年から1クラス(小学校1年生を除く)で実施するために準備した。 ●令和5年度に回答総数3,616人(15歳以上1,018人、中学生739人、小学生1,859人)のアンケート結果を分析し、図書館計画策定懇談会において資料とする予定。
④	●情報推進課、図書館システムベンダーと連携し、図書館システムとネットワークの安全な運用を保持した。 ●図書館システムとネットワークの安全な運用を保持し、安定した図書館サービスを提供できた。
⑤	●令和3年度評価を実施。図書館協議会による二次評価を実施し、結果を教育委員会に報告し、公開した。

基本方針6の総合自己評価・今後の課題改善点	
自己評価	評価・今後の課題改善点
A	●図書館では、各職員が多様な業務に携わり、現場での実務を通して図書館業務全般への理解を深めることで、コロナ感染など予定外の状況においても、各館で職場のメンバーが互いの業務を補える体制を整えることを心掛けている。これにより、職員は自身が担う業務の一部を他者に任せたと、庁内の行政職員としての必須研修も含め自身の資質向上につながる研修へ意欲的に参加することができた。 ●研修を受けた職員は、担当部門内での報告や職員全体への資料の回覧により情報を共有し、全体のスキルアップを目指した。 ●次期図書館計画策定に向けての利用者アンケートは、小中学生への調査も含め、計画策定のみならず、利便性と効率性の向上につながる通常の事業を企画する際の参考として、全職員で結果を共有していくことが重要である。 ●図書館システムとネットワークについては、現状を安定させて維持しつつ、改編や次期システム更新に向けて、世の中の動向や利用者ニーズに合わせられるように常に準備しておく必要がある。 ●年度ごとの「事業計画」、「各事業の進捗管理」、「事業評価」は定例化した取り組みとして定着してきたが、次期図書館計画が策定されるタイミングに合わせ、事業計画の立て方、事業評価の方法についても、より効果的な事業実施に繋がるように見直すことが課題である。

図書館協議会委員による二次評価	
二次評価	評価内容